

本物の陶器の風合を生かした、業務用樹脂食器 「匠シリーズ」を商品化しました

信濃化学工業株式会社

開発経緯

病院施設、老健施設や社員食堂などで使用されていた業務用樹脂食器は、従来、画一的で均質なデザインでした。しかし、社会ニーズの多様化で、使用者のQOLを高め、感性的な豊かさを感じさせるものが求められています。そこで、使用者が手作り感やぬくもりを感じられる高品位な製品を目指し、陶芸家の作る「陶器」に着目し、その良さを活かすために、様々な方法を模索していました。その過程で、長野県工業技術総合センターに画像で立体形状を取得し、三次元CADデータも作製することができる測定機があることを知り、製造手法について、相談しました。当初は完成した陶器の形状を測定し、CADデータ化し、作製する方法を検討しましたが、素焼きの状態が、形状を取得する際に最適であることがわかりました。素焼きの陶器の形状を基に、CADデータ化し、樹脂を成形するための金型を独自のノウハウによって作製する手法を開発しました。その手法によって製造した「匠」シリーズは、大変好評で、発売後、2年半で約20万個を出荷し、過去にない出荷状況となっています。このたび、陶器の風合いを再現しつつ、機能性樹脂を用いて電子レンジや再加熱カート等にも対応し、より軽量で高強度な食器ラインナップ「凜」を発表しました。質感の「匠」と機能の「凜」と樹脂を使い分けることで、差別化を図り、顧客の多様な要望に対応しています。



画像プロープ式三次元測定機

製品の特徴

製品写真は右が素焼きの原形、左が製造した樹脂食器です。

独特の質感と柔らかなライン、粉吹や陶器の釉薬を思わせる色合い、心地良い重みと手触りも楽しめる、画期的なシリーズです。

陶器の見所とも言われる「ろくろ目」、糸やカンナでそぎ落して面を作る「そぎ」、縦にストライプ状に凹凸をつける「しのぎ」等の技法を生かし、業務用食器として、大変好評をいただいています。



左上：右が元形状の素焼きの湯呑み。左が樹脂食器。
右上：右が元形状の楕円皿。左が樹脂食器。
左下：匠シリーズ使用例
右下：凜シリーズ使用例

製品に関するお問い合わせ

信濃化学工業株式会社

〒381-0045

長野県長野市桐原1丁目2-12

TEL 026-243-1115

<http://www.shinano-kagaku.co.jp/>